

1 津山市重点取組

津山市立林田小学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐ つまずき解消	I学力向上担当 II各担任 III全教職員	I-A昨年度のデータから、児童の学力、弱点分析する。 I-B学習解答内容を分析し、課題と指導法を提示する。 II授業改善と学びのサイクルを徹底する。 III放課後補充学習を充実させ、基礎学力の定着を図る。	I-A～4月 I-B～5月末 ※6月以降は5年生に重点を置き、学力の定着と向上を目指す。 II 通年 III 通年	I 研究主任と連携し、校内研修で授業改善に取り組む。 I 問題データベースを活用し、つまずきを解消したり、活用能力を育成したりする。 II 宿題等の課題の見直し、精選。 II テストで定着度を確認し、必要があれば補充学習を行う。 II 学習のねらいに応じたICT活用を推進する。 III 放課後補充学習を充実させ、問題内容を精選する。また、個に応じた指導法を検討し、推進する。	○全国・県学力の標準スコア50以上をめざす。 ○家庭学習の提出率100%をめざす。 ○各学期の新旧漢字の定着率80%以上にする。
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	A各担任 B運営委員会(児童会) C保護者	A現状を保護者に積極的に伝える。 B集会等で全校に呼びかける。 C全校で取り組める内容を発信する。 C親子でチャレンジを毎学期に実施。 Cスマホ・ゲームについての「林田小ルール」を作成する。	A通年 B2学期末 C親子チャレンジ(年3回) C情報収集を1学期末 Cルール作成を2学期末 Cスマホ・ゲームについての「林田小ルール」を作成する。	A通信・学級懇談等で話題にし、学校と保護者、また保護者間の連携をめざす。 B運営委員会で児童発案の取り組みを予定。 C学期ごとに、1週間の「親子チャレンジ」に取り組む。 C子ども…①テレビゲーム、スマホの時間 ②家庭学習 ③読書 それぞれ目標時間を設定し、1週間チェックする。(そのうちノーメディア1日) 保護者…子どものいいところ、がんばったことを1つ見つけ、具体的にほめる。	○「家庭学習一日当たり1時間以上」の児童の割合を5・6年生ともに90%以上にする。 ○「スマホ・ゲームの一日当たり使用時間を2時間以上」の児童の割合を30%以内に減らす。 ○読書活動を一週30分以上とする。

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 (全国(6年生))</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語、算数ともに全体の正答率がどちらも全国・県平均を上回っていた。(国語70%、算数67%) ○国語では、ほとんどの設問で全国平均を上回っており、「選択式・記述式」ともに正答率が全国平均より高かった。とくに、漢字の正答率が高かった。 ○国語では、「意図をとらえながら読み取り、自分の言葉でまとめる」記述式問題の正答率が全国より高かった。 ○算数では、加法と乗法の混合した計算「6+0.5×2」で正答率が80.4%で全国平均よりも20ポイント以上高かった。 ○算数では、棒グラフの資料から特徴や傾向を読み取る問題が比較的良好にできていた。 ●国語では、「一文を接続語を用いて二文に書き直す」問題でつまずきが見られた。 ●国語では、「調べた結果を複数の文章から読み取り、報告文にふさわしい表現で記述する」問題の正答率が21.7%で全国平均(28.8%)よりも低い。 ●算数では、「図形をずらしたり裏返ししたりしてできる形」を選択する問題の正答率が全国より7ポイント低い。 ●算数では、「350-97の97を100にした式で正しい数値を選択する」問題で、全国、県より5ポイント低い。 <p>【県(3～5年生)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語、算数ともにどの学年も全国・県平均を大きく下回っている。 ●国語では、漢字の読み書きは比較的良好にできていたが、「書くこと」領域では全国、県平均より10ポイント以上低い問題も見られた。 ●算数では、すべての領域で全国・県平均を下回り、とくに「数と計算」「数量や図形についての技能」に関する問題の正答率が低い。 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校に行くのが楽しい」と答えた児童は91.3%で、全国平均(85.8%)より高い。 ○「国語、算数の勉強が好きだ」と肯定的な回答をした児童が全国平均より高く、「授業内容がよくわかる」と回答した児童は国語、算数ともに90%以上だった。 ○「家庭での学習時間(1時間以上)」と答えた児童は82.6%で、全国平均(66.1%)より10%以上高い。 ○「家で計画を立てて勉強している」と答えた児童は78.2%で、全国平均(71.5%)を上回っている。 ○「読書が好き」と答えた児童は全国よりわずかに低いが、「図書館を利用している(週1回以上)」児童は54.3%で、全国平均(17.2%)を大きく上回っている。 ○「1日の読書時間」で一番多いのは、「30分～1時間」(34.8%)で、全国平均よりも高いが、「1時間以上」の児童は13.1%で全国(18.3%)よりも低い。 ○「地域の行事に参加している」児童は93.5%で、全国平均(68%)を大きく上回っている。 ●「自分にはよいところがある」と思っている児童は、78.3%で、全国平均(81.2%)よりわずかに低く、自己肯定感が低い児童も見られる。 ●「朝食を毎日食べる」と答えた児童が82.6%で、全国平均(86.7%)より低く、「あまり食べない」児童の割合も全国に比べて高い。 ●「新聞を読む(週1回以上)」と答えた児童は15.2%で、全国平均(19%)よりも低い。 ●「平日のテレビ・ビデオ・DVDの視聴時間」が2時間以上の児童が56.8%で半数以上いる。県平均(47.6%)に比べて高い。 ●「平日のゲームの使用時間」が2時間以上の児童が43.1%で、県平均(33.3%)よりかなり高い。また、「3時間以上」の児童が29.5%見られる。 ●「平日のスマホ使用(メール、インターネット)時間」が1時間以上の児童が県平均よりも高く、3時間以上の児童が11.3%見られる。(県平均8.6%)

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・4年生から放課後補充学習を開始し、げんぼプリントなどの活用で基礎基本の徹底ができてきている。 ・ICTの積極的な活用により、「授業内容がよくわかる」「好きだ」など学習意欲の高まりにつながった。 ・授業の中で「めあてとまとめ」「ふりかえり」を意識し、また「学び合い」の場面を取り入れることで、自分の考えを持ち話し合ったり記述したりできる児童が増えた。 ・「学習のめあて」を毎月提示し、「話の聞き方」や「学習規律」など学校全体で同じ目標に向かって指導することで、落ち着いた学習態度につながった。 ・「親子でチャレンジ」などPTAと連携した取り組みによって、「家庭学習」や「読書」について児童、保護者の意識が高まっている。 ・読み聞かせ等のボランティアで地域の方々や触れ合う機会が多く、地域行事に積極的に参加し、地域を大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、「書くこと」に苦手意識が見られ、「字数制限」や「複数の文章からまとめる」など書くための条件が多い問題の正答率が低い傾向にある。 ・算数では、「計算のきまり」を用いて計算することはできても、式の意味を理解しほかの問題に応用する力が弱い。 ・算数では、ほとんどの領域で県平均を下回っており、前学年までの基礎が定着していない。 ・新聞に触れる機会が少ない児童が多く、読書活動は児童によつての差が大きい。 ・「平日のテレビ・ゲーム」「スマホ使用」とともに、2時間以上の児童が県平均よりもかなり多く、家庭とも連携してルール等早急な手立てが必要である。 ・自己肯定感は少しずつ高まってきているが、個人差が大きい。 ・生活習慣はほとんど定着しているが、朝食を食べない児童、就寝時間が遅い児童が見られる。

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
丁寧に「直し」の徹底	今年度末	・各学年で、宿題や授業に「丁寧に」取り組むことができるようにする。(文字・ノート・丸付け) ・間違えた問題は直し直し、二度と同じ問題で間違えないようにする。	・どのように「丁寧に」すればいいのか、具体的な例を示しながら学年に応じて指導し、同じ基準で評価しながら徹底させる。 ・間違えた問題は必ず直し直し、同じ問題を解き直させる。 ・小テスト等で本人につまずきを把握させ、自主学習を促す。					
授業改善・しかけづくり	今年度末	・全職員で「学び合い」の授業づくりについての研修や授業研究(年3回)を実施する。 ・授業の中で児童が生き生きと活動し、主体的・協同的に学び合う姿が見られるようにする。	・教師が授業の中で具体的にどんな「しかけ」をするのが効果的なのかテーマ研修や授業研究を通して模索する。 ・日ごろからお互いに授業を見せ合い、みんなができる「わかる」授業のユニバーサルデザインを追究していく。					
家庭学習の定着と充実	今年度末	・各学年で家庭学習提出率100%をめざす。未提出者は必ず翌日提出させる。 ・中、高学年では、週に1回以上「自主学習ノート」に取り組ませる。	・各学年で毎日の宿題の内容、やり方をよく検討し精選する。 ・学習時間を意識させ、目標時間を達成できるようにする。 ・お手本となる「自主学習ノート」を紹介するなどして、充実した内容になるように取り組み方を工夫する。					

※達成度 I:S:目標を大きく上回った(100%超)II:A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)III:B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)
IV:C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)VD:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)VE:目標を達成できなかった(30%未満)

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<ul style="list-style-type: none"> ○中道中ブロック「当たり前」の徹底(チャイムスタート)の徹底、規律ある授業づくり、落ち着いた学習できる教室環境づくりに取り組む) ○中学校区で授業公開並びに児童生徒の情報交換を行い、今後の指導に生かす。 ○中学校定期テスト期間中にテレビやゲーム・スマホ等の使用制限の取り組み(ノーメディア週間)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学力向上に向けて」を配布し、学校での重点的な取組を具体的に伝え、家庭と連携して児童の弱点克服に取り組んでいけるようにする。 ○学期に2回ごとの「親子でチャレンジ1週間」を活用して、親子でふれあう時間の設定やノーメディアの取組、読書を家庭に呼びかける。 ○スマホ・ゲーム等のメディアに関して、PTAと連携しながら「林田小」ルールを作成し、徹底する。 ○学校支援ボランティアを呼びかけ、地域の方々とのつながりを大切にしながら、保護者・地域・学校みんなで児童の成長を支えることができるようにする。